

病院用ドナーメイト KL-103 簡易操作マニュアル (加算設定)

| 加算設定(重量 : g表示) 0gからスタートし、採血目標値に向かって数字が増えていきます。 | | |
|--|--|--|
| 採血機の準備 | ① バッグ載血に何も載っていない状態で電源スイッチを入れてください。 ② 電源投入画面から、スタンバイ画面となります。 | |
| | ③ 血液バッグの容量・種類を選択/設定します。タッチパネルで使用する血液バッグを選択します。 ④ 「容量」または「バッグタイプ」ボタンを2秒間長押ししてください。 ・ポップアップ表示が切り替わったら一度指を離してください。 ・△マークが点滅すれば、切り替え可能となります。 | |
| | ⑤ 切り替えたい対象をタッチして種別を変更し、「決定」ボタンを押してください。 ⑥ 「戻る」ボタンを押した場合は、変更せずに元のスタンバイ画面に戻ります。 | |
| | ⑦ 吸引圧の設定を行います。「吸引」ボタンを押すごとに切り替わります。(採血中でも変更できます) ⑧ クランプレバーを下げてチューブクランプを開きます。 | |
| | ⑨ バッグをセットします。バッグ押さえでバッグを押さえてください。 ⑩ バッグから4番目のセグメントをチューブクランプにセットしてください。 ・チューブクランプの向かって左側に1巻きループを作ってチューブガイドへセットします。 ・チューブがふたに触れていないことを確認します。 | |
| | 正しい量を採血するために以下のポイントに注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・バッグ押さえでバッグをきちんと押さえられている。 ・4番目のセグメントがチューブクランプの位置にある。 ・チューブがふたにふれていない。 ・バッグが載せ皿にきちんと納まっている。折れ曲がりがない。 | |
| | ⑪ 「停止」ボタンを押し、チューブクランプを閉じてください。 | |
| | 血液バッグの取り扱いに関しては、使用される血液バッグの添付文書を参照してください。 | |
| | ⑫ 採血チューブを鉗子で止め、穿刺してください。 ⑬ ふたを閉め、クランプレバーを下げてクランプを開き、鉗子はずして「開始」ボタンを押してください。 ・チューブクランプが開いていることを確認してください。 ・ふたが閉まっていることを確認してください。 | |
| | ⑭ 0の表示が、採血されるにしたがって加算されていきます。 ⑮ 設定採血量に達すると規定時間揺動後、採血は終了します。 ⑯ 採血チューブを自動的にクランプし、真空ポンプは停止します。 ・採血終了後、さらに「揺動」を行いたい場合は、揺動ボタンを押してください。 | |
| | 採血終了後にクランプを開く際は、採血チューブを鉗子で止めてからクランプレバーを下げてください。 | |

販売名：ドナーメイト 医療機器認証番号：225AABZX00093000

必ず取扱説明書の内容をご確認の上で、ご活用ください。
このマニュアルは「メモリー方式」での使用に基づいています。

SBカワスミ株式会社

〒210-8602 神奈川県川崎市川崎区殿町3丁目25番4号
TEL 044-589-8070 URL www.sb-kawasumi.jp

103-2110-01-KL

| 参考 こんなときは、 | | |
|---|--|---|
| 途中で採血を中止したい時 | <ul style="list-style-type: none"> 「停止」を押します。自動的にチューブがクランプされ、揺動と吸引が停止します。 |  <p>この3つのボタンは採血中も操作できます</p>  <p>非常停止ボタン</p> |
| 再度採血を開始したい時 | <ul style="list-style-type: none"> ふたを閉め、「開始」ボタンを押してからクランプレバーを押し下げてチューブクランプを開いてください。設定採血量まで採血します。 | |
| 吸引力の変更 | <ul style="list-style-type: none"> 吸引力の設定は採血中でも変更できます。患者さんの容態に合わせて変更してください。 「吸引」を押すごとに切り替わります。 | |
| 緊急停止 | <ul style="list-style-type: none"> 「停止」を押します。自動的にチューブがクランプされ、揺動と吸引が停止します。 この方法でクランプされない場合は赤い非常停止ボタンを押してクランプしてください。 | |
| トラブルシューティング ～故障かな? と思ったら…～ | | |
| 電源スイッチが入らない。 | <ul style="list-style-type: none"> 電源コードが確実に接続されているか確認してください。 ヒューズが切れていないか確認してください。 | |
| 採血不良が発生する。 | <ul style="list-style-type: none"> バッグ載血にものを載せたまま電源投入をしなかったか確認してください。 血液バッグは正しくセットされていたか確認してください。 | |
| 運転になっても、採血量の数値が減少しない。(真空にはなっていない) | <ul style="list-style-type: none"> チューブクランプが閉じたままになっていないか確認してください。 血液バッグの採血チューブを“鉗子”または“メディクランプ”で閉じたままになっていないか確認してください。 血液バッグの採血チューブに“連通ピース”がある場合は、連通ピースがきちんと折られて開通しているか確認してください。(側管・補液ラインの連通ピースは採血中は折らないで下さい。血液バッグの添付文書を確認してください。) | |
| 吸引しない。(真空にならない) | <ul style="list-style-type: none"> 吸引設定の「切」を選択していないか確認してください。 ふたのロックがしっかり掛かっているか確認してください。 | |
| 装置内部に物を落したとき。 | <ul style="list-style-type: none"> バッグ載血を取外して物を取り除いてください。 | |
| エラー表示について | | |
| 電源投入時にE-1エラーが表示される | <ul style="list-style-type: none"> 重量エラーです。 バッグ載血に物が載っている場合は、取り除いてください。 バッグ載血が確実に取付けられているか確認してください。 エラーが繰り返される場合は、弊社までご連絡ください。 | |
| その他のメッセージについてはモニターに表示された対応方法を参考としてください。 | | |